

事後評価報告書(日-フランス研究交流)

1. 研究課題名: 「ヒューマノイドロボットのための能動的両耳聴」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者: 国立大学法人京都大学大学院情報学研究科 教授 奥乃 博

2-2. 相手側研究代表者: ツールーズ大学 LAAS-CNRS ポールサバティエ大学
教授 Patrick Danès

3. 総合評価:(A)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

日本側チームも相手側チームも多くの著名な研究者がメンバーとして登録されており、本領域における日仏のオールスタープロジェクトである。このような著名な研究者が集まってプロジェクトが構成できたことは素晴らしいと思う。参加した若手研究者には良い経験になった。日本側プロジェクト参加メンバーの一部がプロジェクト途中でそれぞれの所属機関から転出し、昇任したことは評価できる。

双方とも、きわめて活発な研究を行っているが、共同研究という観点からは共著論文が評価対象期間中に発表されなかったことは残念である。

フランス側はいくつかの大学等の混成チームであるが、その間での協調体制については報告書からは見えづらい。

(2)交流成果の評価について

学生までを含めて大人数のプロジェクトで、学会等の機会に重ねた相互訪問など、きわめて活発に交流がなされた。人的交流に基づく、技術の移転もなされた。国際会議における特別セッションも含め、協力したWSなども、多数開催された。

一方、プロジェクト参加メンバーが多いことで、交流は学会、シンポジウム、ワークショップなどへの出席にあわせた打ち合わせが大半となり、若手研究者の長期間交流や派遣など、人材育成に繋げる活動は難しかったように見受けられる

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

共同研究期間の終了後も交流が深められているようであるが、予算規模を考えると、あまりにも多くの研究者が関係しているプロジェクトである。

本共同研究によって優れた成果が生まれており、今後は得られた研究成果を産業に活かすフェーズとなると期待されるが、その際に知財の権利に関する問題が発生する可能性についての注意が必要になってくるだろう。